新年のごあいさつ

「新しい出発の年に」

佐渡市長
髙野宏一郎

新春を迎え、謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

旧年中は市民の皆様より市政の推進に並々ならぬご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は3月1日に佐渡島内10市町村が2年半にわたる協議を経て、念願の佐渡市が誕生した記念すべき年でありました。

しかし、誕生したばかりの佐渡市には大きな試練が待ち受けていました。7月からの豪雨、連続して襲った台風による高波、塩害などにより農業、漁業等に壊滅的な被害を受けました。そして、その傷の癒えぬ10月に突如発生した中越大震災は佐渡市でも震度4を記録し、直接の被害こそ少なかったものの、その後続いた余震による風評被害等で、観光客の予約取り消しが激増し島内経済の不況感に拍車をかけました。このような情勢の下ではありましたが、佐渡市では被害を受けられた方々への支援を、新潟県や関係機関と協力して行い、復興への道筋をつけてきたところであります。

明るい話題もありました。オリンピックの大量メダル獲得や、曽我さん一家が年末に佐渡へ帰ってこられ、一家水入らずの静かなお正月を過ごされたことは、我々にとって本当に喜ばしいニュースでした。今後はお母さんのミヨシさんをはじめ、拉致被害者全員の帰国を国に働きかけていきたいと考えています。

合併して既に10か月が過ぎました。振り返れば合併は、遥か彼方の出来事にも思えるほど息つく暇もなく、数多くの出来事を体験した昨年でしたが、今年はその経験を基にして、本当の意味で新しい出発の年にしたいと願っています。

国も県も深刻な財政危機の中にありますが、佐渡市では効率のよい行政運営に努め、今後増え続ける住民ニーズの増大に対応するため、議会とともに行政改革への努力を続けます。

厳しい状況下でも佐渡市は合併支援策の恩恵を受け、無理のないかたちで各種の建設計画や施策の実行に取り掛かる所存です。

特に本年は国の壮大なプロジェクト、「トキの野生放鳥」に向け、トキの野生復帰順化施設の建設や餌場となる水辺の造成、環境や景観を見据えた循環型社会の形成へ向けた、本格的な取り組みの年になります。

今後も空港問題やユネスコの世界遺産登録、観光振興、地産地消、医療・福祉・介護問題、特区等々、一刻も猶予が出来ない懸案事項が山積しています。しかし市民の方々と共に、「賑わいの島づくり」を目指し、活力に溢れ各地域が協調融和、協働して大きく躍進する年となるよう邁進して行く所存ですので、皆様に二層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後にいまだ災害により苦しんでおられる被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様のご多幸をお祈りし、年頭のあいさつといたします。

「市民の皆さんとともに佐渡市躍進の年に」

佐渡市議会議長
浜口鶴蔵

市民の皆様、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年中は、佐渡市議会にひとかたならぬご協力をいただきまして、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、当佐渡市においては激動という一言では語り尽くせない、歴史に深く刻まれる一年でありました。

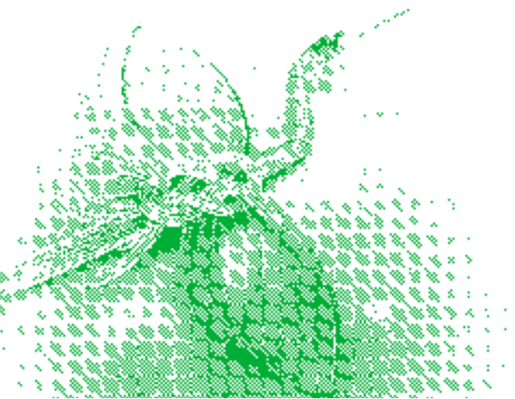
3月1日に10か市町村が一つにまとまり佐渡市が発足し、4月には初代市長と60人の市議会議員が誕生しました。8月には度重なる台風による農作物の壊滅的被害、10月の新潟県中越大震災では、観光業を初めとする関連業種の風評被害などがありました。

また、これらの災害は、新潟県全体にも大きな爪あとを残しました。災害の復旧にはまだまだ日時を要することと思いますが、一年で最も寒さ厳しい時期にあたり、被災地の一日も早い復興を祈るものであります。天災の恐ろしさと、防災体制の重要性を昨年ほど痛感させられたことはありませんでした。佐渡市議会としては、災害に対して的確に対応できる体制の確立に向けて目配りを十分していく所存であります。

市民の皆様、佐渡市合併から2年目を迎えようとしています。

今、市ではゴミ処理や環境問題、さらに高齢化を中心とした福祉対策など、これから克服すべき課題は山積しています。これらの問題解決には、市民の皆様のご協力なくしては、何一つ解決することは不可能であります。今年もより一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

議会は皆様の声を、的確に市政に反映させることが責務であります。

新しい年を迎えるにあたり、心を新たにして、わが市の躍進の年となるよう、議会も皆様とともに歩んでまいりたいと思います。

この一年が皆様にとって実り多い年でありますようお祈りして、ごあいさつに代えさせていただきます。